

地質調査技士資格検定試験に合格して

有限会社三陽技研 加藤 一智



1. はじめに

私は、令和五年度地質調査技士資格検定試験（現場調査部門）に合格しました。合格の喜びに「ほっ」としている時に、合格体験記の執筆依頼を頂き正直驚きました。

当初、依頼を受けるかどうか迷いましたが、それでも私の体験がわずかでも皆さんのお役に立つことが出来れば、とても嬉しいなと思いました。また、自分自身の貴重な経験になると思い、お受けすることにしました。

これから受験する方に、少しでも参考になれば幸いです。

2. 試験勉強

私の試験勉強は、ありきたりです。諸先輩方と同じく、主に過去問を解くことでした。その中で最初にぶつかった壁は、日常で使っている名称や過去問やボーリングポケットブックの名称が現在使われている名称と違うことです。過去問を解いていても、通常使わない名称だと、問題の意味が理解できず、何を問われているのかも分からず、自己採点をした後も「答えはこうだったのか？」と、まるで初めて接するようでした。

そこで、まずは現在の名称を書き出し、通常使っている名称に置き換えることにしました。名称をだいたい覚えてから、再度解いてみると、今度は問題文が理解できました。私がこれまで経験してきたことや、先輩方から指導教育していただき、学んだことが出題されていることがようやくわかりました。

その後は、間違えた箇所の知識を正しく身に付ける為に、ポケットブック以外にも全地連資料館の公式サイトを使うことで、正答率を上げていきました。調べても答えがわからない問題については、所属する工務課以外の試験室や技術課の先輩方へも質問し、解説して頂くことで、なんとか理解することができました。

3. 事前講習会

6月に実施された地質調査技士試験事前講習会には初参加でした。講習会では、各分野からの出題数・傾向等、覚えるべきポイントを講師の先生に具体的に教えて頂き、参加してとても良かったと思います。これから合格を目指す方へは、是非受講をオススメします。

4. 試験当日

試験当日は、時間に余裕を持つため30分前行動を心掛け、出発する前に再度忘れ物がないかを確認し、試験会場へ向かいました。

会場に着いて、試験開始まで多少時間に余裕がありスマホで過去問の試験サイトを見て過ごしました。

試験では、日々の業務の経験の裏付けに加えて、繰り返し学習して知識を身に付けた自信もありうまく解答できたと思います。

一方面接では、「ボーリング孔で実施する孔内試験を全て答えてください」「標準貫入試験はなぜ15cmの予備打ちがあるのか？」「ジャミングした際の解決策は？」等を聞かれました。いずれも堂々と質問に答えることができ、個人的には上手くいったと思います。これも事前に先輩方から面接の予行練習に協力頂き、おかげ様で過度に緊張することなく挑めました。

5. おわりに

今回、私が地質調査技士資格試験に合格できたのは、先輩方並びに講習会の講師の先生方、多くの関係者のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

試験に合格はしたものの、先輩方と比べれば、まだまだ知識も経験も足りません。これからも日々、業務をこなしながら経験を積み、また勉学に勤しみ、自他共に認められる地質調査技士を目指します。

株式会社協和地質 藤原 雅人



【1. はじめに】

令和5年度に試験を受験し、無事合格することができました。その際の体験談を紹介いたします。

【2. 試験勉強】

●択一問題

これは皆さん同じ方法で勉強されているかと思いますが、とにかく過去問を解いていきました。私の場合は、過去5年分の過去問に絞って行いました。最初のうち、ただひたすら問題を解いていき、2週目から自分がどこを間違えやすいのかをチェックしながら解いていきました。慣れてきたら、間違えやすい箇所を重点的に勉強しながら、実際の試験時間内に問題を解く練習をしました。最終的な過去問の正解率は80~90%くらいでしたが、試験日に大丈夫と思えるほどには勉強していました。

●記述問題

必須問題である技術者倫理は、読みながら書くことで暗記しました。音読しながら書くことで、簡単に暗記できたと思います。選択問題は、業務経験に関する問題に集中して勉強しました。こちらも倫理と同様に、暗記することが大事なので、とにかく書いて音読するという作業を繰り返しました。

【3. 事前講習会】

試験を受ける年と前年の2回受講しました。近年の出題傾向等、丁寧に説明して頂けるので、理解が不足している箇所を補うことができました。

【4. 試験当日】

生活リズムを崩さないように普段通りを心がけました。受験票などは忘れないように、前日に準備して、出かける前に再度確認しました。肝心の試験は、過去問になかった問題もあり、少し焦りましたが、過去問をしっかりと解いていたので、自信を持って解くことができました。記述試験に関しては、想定していた問題だったため、問題なく解答することができました。

【5. 最後に】

一つの目標であった地質調査技士に合格することでほっとしました。今後はこれまで以上に、責任と知識の向上に努めていきたいと思います。

また、試験対策として、過去問に出ない問題もちろん出題されるため、最新情報にもアンテナを張っておくと、完璧な試験対策になると思いました。

旭ボーリング株式会社 藤村 恒太



私は、令和5年度（第57回）地質調査技士資格検定試験（現場技術・管理部門）を受験し、幸いにも合格することができましたので、これから受験される方々へ少しでもご参考になることを願って、合格までの体験を書かせて頂きます。

【事前講習会】

私は事前講習会を受講しました。試験の際に加点されるメリットがあり、また初めての試験だった為、試験問題についての流れやどのような傾向があるかを把握しておきたかったのが受講した理由です。講習会では、テキストを基に近年出題しやすい問題の傾向や、試験で重要な部分を丁寧にご教授して頂き、大変参考になりました。実際の試験でも、講習会で説明して頂いた問題が多々出題されて、受講して非常に良かったと思いました。

【受験勉強】

受験勉強については、午前中にある択一問題については、過去問を5年間分準備し、毎日1年分（100問）を解くことを目標として取り組みました。最初は正答率4～5割程度しか解けませんでした。合格基準が7割程度の為、間違えた問題については、テキストやインターネットを活用しました。その際意識した事は、ただ間違えた部分だけを理解するのではなく、関係性のある部分もしっかり把握し、業務にも活用できるよう意識しながら勉強しました。これを3か月ほど続ける事により、択一問題については、十分に理解し試験に臨むことが出来る様になりました。

記述式問題については倫理綱領が毎年必ず出題するため、1字1句完璧に覚えるために、倫理綱領に記載してある事についてスマートフォンを使用し、動画に自分で読み上げたものを保存し、会社に行くまでの車内や、家に帰るまでの車内で聞いていました。また毎日必ず就寝前に書いて覚えました。しかし、「日頃から実践していること」についても年によっては出題してくるので、3パターンを準備しました。選択問題については、日ごろ業務で行っている中でも自信のある選択問題を絞り込んで、解答例を作成し準備をしました。試験日半月前には原稿を準備し、時間を計りながら試験と同じ様に問題を解きました。

【試験当日】

試験当日は、今まで勉強してきた自信があったため、あまり緊張しないで試験に臨む事が出来ました。択一問題については、初めて見る問題もありましたが、そこは割り切って次の問題に進みました。しかし、ほとんどが過去問から出題されていました。記述式問題の倫理綱領については全て書き出す出題であり、選択問題についても、事前に準備した解答例が出題されたので問題なく試験を終えることが出来ました。

【終わりに】

合格通知が届き、安堵しましたが、今後は地質調査技士として恥じないように、試験勉強で培った内容を、インプットするだけでなくアウトプットし、業務に活かしていきたいと思っています。